

地に行って調べてはいかがでしょう。私の手元には町村データがあるので地図を作って色分けすると、ある特定の地域で出生率があがっているのがよくわかりますね。

澤 尾崎先生のお話を伺って思ったのですが、以前宮古で子ども関係の行政の方とご一緒した時に宮古の高出生率が話題にのぼったことがありました。50代くらいの方でしたが、そんなに子どもは多くないと思っているようで、宮古は多産であるという認識はお持ちではありませんでした。世代的に当たり前といえば当たり前なのですが。そして、わりとポイントだと思うのですが、宮古は必ずしもいわゆる子育て支援は豊富ではないと思います。要するに、何が言いたいかと申しますと、そもそも子育て支援が豊かだから子どもを産む要因につながるというのなら、その子育て支援の「支援の本質」は何なのかということです。市町村のHPであえて何か特色を打ち出しているということがどんな子育て支援をやっているのかということが私にはよくわからないのですが、そのあたりいかがでしょうか。

尾崎 HPはフォーマルな子育て支援、宮古島はインフォーマルな子育て支援だから、それはわからない。でも国としてはフォーマルなメニューで何とかしなくてはというしか手法がない。インフォーマルなものを高めるために、あえて間接的な支援をする力量が国にあるのかどうかを問いたいところですね。

少子化社会における妊娠・出産にかかわる政策提言

I 人と人のかかわりのきっかけをつくる行政医療施策

① 地域に根ざした産科施設・助産院の配置

出産、地域や家族の生活の場から切り離さないことが、地域・家族の子育て力につながる。

② 母子同室の推進

出生後からの母子同室を励行し、母親の傍で身近に赤ちゃんと接することができるようにする。これは、出産後の母親と赤ちゃんの間の絆は、出産直後の接触だけで形成されるものではなく、その後の一緒に過ごす時間、空間などが大きく影響すると考えられるからである。

③ 母乳育児の推進

母乳育児による母子のスキンシップは、母子相互作用や愛着形成を促すために重要なものであり、そのための関係機関のサポート体制の充実が求められる。

③ 家族のかかわりをつくる新生児訪問の充実

保健師による新生児訪問では、新生児の健康状態だけを見るのではなく、家族にかかわりをもちながら、家族の間の絆を強めるような訪問活動が重要である。

④ 関係性を中心としたマタニティクラスの展開

地域の中で、妊婦及び支援者である家族を対象に、地域の中での支え合い育ち合える子育てについて、家族の一体感の醸成、意識づけとなる「場」の提供の展開が有効である。

II 関係性に基づく地域づくりの支援

地域共同に根付いた世代間交流

実の親だけでなく、他人の子どもに他の大人がかかわるのは当然という価値観の醸成。

⑤ いのちをつなぐ次世代への母性をはぐくむアプローチ

⑥ 大人の自己改革の展開

- ・自己完結的な価値観から他者との関係性や世代間継承の視点へ
- ・大人自身の子どもへの対話力の向上

⑦ 継続的な世代間交流をはかる環境づくりの推進

地域に住む多数の住民と多様な地域活動を展開し、子どもたちを巻き込み、大人たちと関係をつくること。家庭、地域社会、学校など、子どもたちの生きているありとあらゆるところに、相互関係性形成と相互承認の土壌を育て、ネットワークを子どもたちと一緒につくりあげること。